

三好 和彦 議員



(一般質問)
1 ペットの防災対策について
2 小学校における動物愛護教育について

ペットの同行避難 支援体制の現状は？

問 国は、災害時に飼い主とペットが同行避難することを原則に、ペットの受け入れが可能な避難所の整備を自治体に求めるガイドラインを策定しているが、同行避難に対する理解や備えはじゅうぶんとは言えない。同行避難の認識を広める取組を行っている市もあり、本市においても同行避難に対する情報発信や防災訓練の実施など、早急な対策が必要と考えるが、どのように取り組んでいくのか。

答

本市では、避難所設置運営マニュアルに基づき、市内108か所全ての指定避難所において、避難してきた犬猫などのペットの管理区域を確保し、他の避難者に配慮した上で受け入れることとしている。指定避難所では、動物愛護の観点から医療やペットケア、飼育環境について、獣医師会や各種動物愛護団体からの支援が必要であると考えているが、受け入れに当たっての具体的な検証は行われていない。

今後は、円滑な受け入れに向け、地域住民や獣医師会などによる避難所運営訓練を実施し、同行避難に対する支援体制の整備について検討したい。



ペットも安心して避難できる場所を

西条 自民
クラブ

高橋 保 議員



(一般質問)
1 フレイル予防と介護予防の一体的な取組の実施について

フレイル予防で 健康意識の向上を！

問 近年、人口減少に加え、急速な高齢化が進んでいる中、元気な状態と介護が必要な状態の間を意味する、フレイルという言葉が注目を集めている。フレイルは体の虚弱・心の虚弱・社会性の低下の三つの要素が重なり合うものであるが、栄養・運動・社会参加の推進により、効果的な予防ができると考えられている。

西東京市では、フレイル予防事業の講師を、市の職員や各種専門職のかたではなく研修を受けた地域住民が行っており、地域住民が主体となることで、健康意識や、まちづくりへの参加意識の向上などの効果が得られているとの例もあるが、本市におけるフレイル予防についてどう認識しているのか。また、介護予防にどう取り組んでいるのか。

答

本市においては、フレイル予防という用語は用いていないが、健康寿命延伸の観点から、栄養・運動・社会参加の推進に資する四つの介護予防事業に取り組んでいるところである。

一つ目、スマイルサポート教室では、要支援1、2の認定者及び生活機能の低下が見られたかたを対象に、運動や栄養指導を行っている。

二つ目、いきいき百歳体操では、65歳以上の高齢者を対象に、筋力アップや口腔機能の向上、認知症予防の体操を行っている。

三つ目、高齢者カフェでは、65歳以上の高齢者を対象に、



いきいき百歳体操で筋力アップ

体操や手芸、脳トレなどのレクリエーション、生活相談などを行っている。

四つ目、出前講座では、老人クラブなどからの要望に応じて、介護予防体操や介護に関する講義などを行っている。

これらの取組の効果として、6割以上の参加者に筋力、口腔機能の維持・向上が見られたほか、身体的な効果以外にも教室が交流の場になり、閉じこもり予防や生きがいづくりにつながっていると考えている。今後は、現在実施している栄養・運動・社会参加に関する事業の内容について検証を行い、一体的で効果的なものとなるよう取り組んでいきたい。